

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



平成27年11月23日（月）～平成27年11月29日（日）〔第48週〕の感染症発生状況

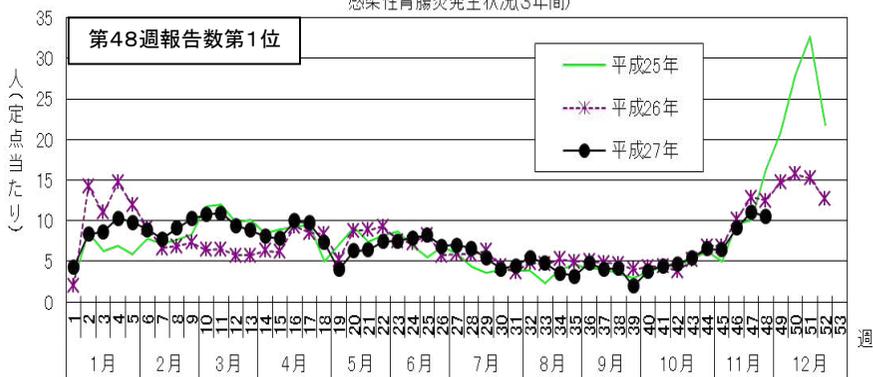
第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は10.52人と前週（10.73人）からほぼ横ばいですが、例年より低いレベルで推移しています。

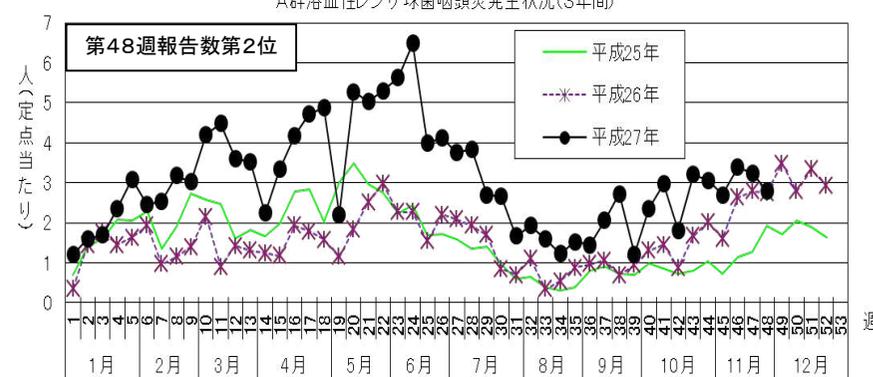
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.79人と前週（3.15人）からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

水痘の定点当たり患者報告数は1.33人と前週（0.76人）からやや増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)にご注意ください！

流行性耳下腺炎は、一般に「おたふくかぜ」とも呼ばれており、ムンプスウイルスを原因とする感染症です。

この数年目立った流行はありませんでしたが、今年は全国的に、1月以降の患者報告数が徐々に増えています。川崎市においても、10月下旬以降増加がみられますので、今後の動向に注意が必要です。

流行性耳下腺炎ってどんな病気？

感染経路：唾液などの接触・飛沫感染

潜伏期間：通常 16日～18日

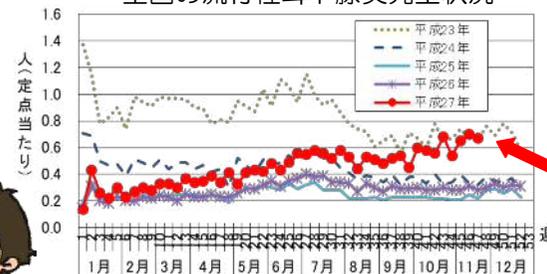
好発年齢：3～6歳の小児

症状：主に、両側又は片側のほおの腫れや痛み、発熱などがみられますが、感染しても症状が出ない方（不顕性感染）も3割程度いるとされています。

経過：基本的には軽症のまま治癒しますが、合併症として、髄膜炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴などを発症することもあり、妊婦が感染すると自然流産することもあります。



全国の流行性耳下腺炎発生状況



川崎市の流行性耳下腺炎発生状況

